

イベント・レポート

日本・トルクメニスタン・ビジネスフォーラム

はじめに

安倍総理の中央アジア歴訪最初の訪問国となったトルクメニスタンの首都アシガバット市において、2015年10月23日、日本トルクメニスタン経済委員会(事務局:ロシアNIS貿易会=ROTOBO)と(独)日本貿易振興機構(JETRO)の共催で、日本・トルクメニスタン・ビジネスフォーラム「日本・トルクメニスタン経済関係の新たな展望」が開催されました。

第1部「資源利用の高度化」、第2部「社会インフラ整備分野における協力」というテーマで日本とトルクメニスタン双方合わせて20の報告が行われたフォーラムには、両国の官民代表約250名が参加しました。また、フォーラムの最後には安倍総理とベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領が出席し、これまでの両国間の投資・ビジネス関係の成果を高く評価するとともに、今後の新たな協力分野の可能性について期待を表明しました。

以下、日本トルクメニスタン・ビジネスフォーラムの概要についてご報告致します。



日本・トルクメニスタン・ビジネスフォーラム(2015年10月23日) プログラム

| | |
|--------------------|---|
| <p>14:00-14:05</p> | <p>◆モデレーター: 小林洋一 日本トルクメニスタン経済委員会会長 /伊藤忠商事顧問</p> <p>【オープニング】</p> <p>◆開会挨拶: 前田 茂樹 (独)日本貿易振興機構 理事</p> |
| <p>14:05-14:55</p> | <p>【本会議 第1部 資源利用の高度化】</p> <p>◇M.ハリロフ トルクメニスタン石油ガス工業・鉱物資源大臣</p> <p>◆寺本 禎治 みずほ銀行常務執行役員 欧州地域ユニット長</p> <p>◆小林 栄三 伊藤忠商事 取締役会長</p> <p>◇N.カディオフ 「トルクメンヒミヤ」総裁</p> <p>◆中村 邦晴 住友商事会長</p> <p>◇ A.ベグリエフ 「トルクメンガス」総裁</p> <p>◆渡辺 達也 川崎重工 プラント・環境カンパニー バイスプレジデント</p> <p>◆包行 良光 筑水キャニコム社長</p> |
| <p>14:55-15:55</p> | <p>【本会議 第2部 社会インフラ整備分野における協力(運輸、電力、医療等)</p> <p>◇Ye.シェリポフ・トルクメニスタン経済発展大臣</p> <p>◆山本 修三 Medical Excellence JAPAN 代表理事</p> <p>◇N.アマンネペソフ・トルクメニスタン保健・医療工業大臣</p> <p>◆山田 紀子 PJL 代表取締役</p> <p>◇S.オラズムイラドフ・トルクメニスタン工業大臣</p> <p>◆中村 裕明 東京製綱社長</p> <p>◆星野 恭亮 旭イノベックス社長</p> <p>◇M.アイドグディエフ・トルクメニスタン自動車交通大臣</p> <p>◆小丸 成洋 福山通運 社長</p> <p>◆杉田 浩章 ポストン・コンサルティング・グループ シニア・パートナー&マネージング・ディレクター</p> <p>◇Ch.アタエフ・トルクメニスタン建設・建築大臣</p> <p>◆本会議モデレーター閉会宣言:小林洋一 日本トルクメニスタン経済委員会会長</p> |
| <p>16:30-17:00</p> | <p>○セキュリティ・チェック</p> |
| <p>17:30-18:00</p> | <p>【VIPセッション】</p> <p>◆モデレーター: M.アタエフ トルクメニスタン戦略計画・経済発展研究所所長 長谷川栄一 内閣総理大臣補佐官</p> <p>○安倍晋三首相、ベルディムハメドフ大統領入場</p> <p>◆モデレーター開会の辞(アタエフ トルクメニスタン戦略計画・経済発展研究所所長)</p> <p>◆モデレーター開会の辞(長谷川 内閣総理大臣補佐官)</p> <p>◆ベルディムハメドフ大統領挨拶</p> <p>◆安倍首相挨拶</p> <p>◆日本側実業界代表による謝辞(小林日トルクメン経済委員会会長)</p> <p>■署名式</p> <p>◆モデレーター閉会の辞(アタエフ トルクメニスタン戦略計画・経済発展研究所所長)</p> <p>◆モデレーター閉会の辞(長谷川 内閣総理大臣補佐官)</p> <p>○安倍首相、ベルディムハメドフ大統領 退場</p> |

両国首脳挨拶概要

今回の日本・トルクメニスタン・ビジネスフォーラムでは締めくくりにVIPセッションが行われ、安倍総理およびベルディムハメドフ大統領が出席した。同セッションでは両首脳の挨拶が行われたが、本稿ではまず冒頭でその概要について紹介する。

ベルディムハメドフ大統領 トルクメニスタンの市場としての魅力には、中立政策、社会・政治的安定、近代的な法制度基盤などが挙げられる。そして豊富な天然資源、恵まれた地理的条件、急速な経済成長といった投資誘致に重要な前提条件も揃っている。さらに外国投資家に対して、税、関税、査証、保険などの制度で特権を付与している。国内総生産における製造業の占める割合が増加し、同分野に関わる投資プロジェクトや合弁企業の数も増えている。

世界的には経済は停滞傾向にあるにもかかわらず、トルクメニスタン経済の発展はプラスの傾向を示しており、2015年のトルクメニスタンのGDP成長率は8.3%と予想されている。この成果は、IMF、世界銀行、EBRDの専門家も指摘しており、彼らはトルクメニスタンを訪れた際、さらなる経済成長や投資環境に関する格付の向上も予測している。

前述のとおり、今日のトルクメニスタン経済の成長を決定づける要因として、GDPに占める製造業の割合の拡大、製造業に向けられる投資に占める外国投資の割合の安定した拡大を挙げることができる。世界水準の日本の最新技術には高い関心があり、そうした技術が製造業に提供される可能性に期待したい。

日本はトルクメニスタンの重要な投資パートナーである。現在、トルクメニスタンでは日本企業が参加する投資プロジェクトが32登録

されており、その投資総額は65億ドルに達する。日本の大企業は長年、燃料エネルギー、建設、石油化学、水利など、トルクメニスタンにとって最も重要な分野で、JBICやNEXIの支援の下、活動を成功させているので、こうした協力関係が今後も続くことを支持していく。

二国間のパートナー関係の優先的な方向性、すなわち、双方の可能性が幅広く使われるであろう方向性として、トルクメニスタン経済の多様化、ハイテク製品の導入、エネルギーおよび輸送分野の大規模な国家的および国際的なインフラプロジェクトの実施などを考えることができる。天然ガスから液体燃料を生産する工場の建設に際して、日本のGTLおよびGTG技術を誘致する計画は将来性がある。

トルクメニスタンにおける近代的な輸送インフラプロジェクト、特に鉄道分野への参画の重要性を検討してほしい。アジア、欧州、中近東への出口を持つ「東西」および「南北」と呼ばれる輸送回廊の敷設における協力は重要である。トルクメニスタンは大陸において大規模な輸送拠点の一つとなることが求められており、これは同時に日本のビジネス業界にとっても魅力的となるであろう。

優先的な協力の方向性としては保健、農業、電力、観光、通信、情報等を挙げることができるが、これらの分野の近代化、近代的設備の導入、新しい経営方法および決定方法の導入に参画してほしい。

ADBのような国際金融機関が参加する「質の高いインフラパートナーシップ」という枠組みにおける相互連携もまた重要であり、トルクメニスタンは協力メカニズムを詳細に検討する用意がある。

日本は世界で最も巨大な金融センターの一つであり、この意味においてトルクメニスタンは日本の金融システム、融資や信託機関、保険会社、証券会社の経験に関心がある。

トルクメニスタンの経済戦略の1つはGDPに占める民間企業の割合を段階的に拡大することであるが、これに関連して日本トルクメニスタンおよびトルクメニスタン日本経済委員会合同会議への参加、ビジネス交流、企業連携が重要である。

安倍内閣総理大臣 挨拶の冒頭で安倍総理は、日本の総理大臣として初めてトルクメニスタンを訪問し、中央アジア歴訪をトルクメニスタンから始めることができたことと語り、到着時に煌々と輝くアシガバットの街を眺め、トルクメン文化に親しく接する機会を得て、溢れるバイタリティと大切に守られている伝統を直に感じた、とその印象を述べた。

安倍総理は、かつて日本が「黄金の国ジパング」と呼ばれたことを紹介し、今はまさにトルクメニスタンが「黄金の国」と呼ぶにふさわしいと語り、日本とトルクメニスタン2つの「黄金の国」が相互補完的で互恵的な協力を深めることはとても自然なことであるとこれまでの関係を評価した。そして、トルクメニスタンは天然資源の輸出に加え、より付加価値の高い経済を目指し、質の高いインフラを求めており、そこに日本の果たす役割があることを指摘した。

さらに総理は、首脳会談で、トルクメニスタンの産業高度化に日本が官民を挙げて協力すること、人材育成で協力を進めること等について協議を行ったと説明し、今回の訪問に際して総額約180億ドルに上るプロジェクトに関する文書に署名ができることについて、ビジネスフォーラムに参加している両国の皆様の尽力に感謝したいと語った。

最後に、今後、様々なプロジェクトの実現、両国間の協力や交流のため、より多くの日本人がトルクメニスタンで過ごすことになるので、こうした日本人にとって、トルクメニスタ

ンがより身近となり、協力の成果を挙げていくことができることを願っていると述べた。



首脳会談で握手を交わす両首脳



フォーラムに参加した両首脳

(写真提供：内閣広報室、外務省HPより)

本会議概要

本会議は小林洋一・日本トルクメニスタン経済委員会委員長（伊藤忠商事(株)顧問）がモデレーターを務め、冒頭で（独）日本貿易振興機構（JETRO）前田理事の開会挨拶が行われた後、2部構成で本会議が行われ、日本とトルクメニスタン合わせて20の報告が行われた。以下ではその概要について報告する。

開会挨拶 主催者を代表して開会挨拶を行ったJETROの前田理事は、トルクメニスタン

が豊富な天然資源を活用し、産業の多角化を進めていることを指摘するとともに、日本企業が持つ先端技術を活用することで、同国の産業基盤と輸出競争力の強化に貢献することが可能になると述べた。また、資源・エネルギー以外にも、運輸、電力、医療といった社会インフラ整備や新たな産業振興にも貢献できると考えを述べ、ビジネスフォーラムを通じて、両国のビジネスチャンスに関する相互理解が深まることへの期待を表明した。

第1部 資源利用の高度化 続いて行われた本会議第1部は、「資源利用の高度化」をテーマに、世界第4位の天然ガス生産国であるトルクメニスタンのガス生産、ガス加工、ガス化学の現状と同分野における協力に関わる報告を中心として、トルクメニスタン側から石油ガス工業・鉱物資源省、トルクメンヒミヤ、トルクメンガスの代表3名と日本企業の代表5名によって報告が行われた。

最初の報告を行ったハルィロフ石油ガス工業・鉱物資源大臣は、トルクメニスタンの新たな課題として、最先端技術の導入による経済発展の加速化、イノベーション、国際協力および投資活動の活性化、世界経済との統合の深化を挙げた。また、第一産品としてのエネルギー資源の市場拡大だけでなく、天然ガスの高度な加工、加工品の輸出拡大、化学製品の市場拡大も目指すと強調した。大臣は日本とトルクメニスタンは期待が持てる安定したパートナーであり、投資分野での関係拡大、新しい協業の可能性が両国の間にはあり、今回のフォーラムが協力関係の強化に資することを確信しているとして報告を締めくくった。

次に、寺本・みずほ銀行常務執行役員・欧州地域ユニット長は、これまでにトルクメニスタンで同行が関わった案件を紹介し、今後もトルクメニスタンと日本企業との架け橋にな

ることが重要な使命であり、信頼されるパートナーを目指すと言った。

続いて、小林・伊藤忠商事取締役会長は、日本企業として最初にアシガバットに事務所を開設し、同国との経済関係の発展に尽くしてきたことを説明し、今後もガスの有効利用を検討し、トルクメニスタンの経済発展に貢献するための取り組みを続けると述べた。

トルクメニスタンの化学分野を代表する国営コンツェルン「トルクメンヒミヤ」のカディオロフ総裁は、化学産業はトルクメニスタンで最もダイナミックに発展している分野であり、自国産の原料を最大限に活用し、国内の化学製品の需要を満たすと同時に輸出を拡大する方針であると語った。主要な日本企業との協力の事例を挙げ、こうした互惠的協力関係をトルクメニスタンが重要視しており、将来的なビジネス関係拡大のために新しい投資プロジェクトへの積極的な参加を今後も期待していると指摘した。

次に、中村・住友商事会長は、同社のトルクメニスタンにおける取り組みの例として、ゼルゲル・ガス火力発電所建設や高品質油井管のビジネスを紹介した。

トルクメニスタンの燃料エネルギー分野において最も重要な役割を果たすガス産業の中核を担う国営コンツェルン「トルクメンガス」のベグリエフ総裁は、大統領主導のエネルギー政策が国内の経済発展にとって重要なだけでなく、グローバルなエネルギー安全保障の強化にも大きな役割を果たしていると強調した。トルクメンガスは天然ガスの鉱床開発、採掘、精製、輸送、さらにガスおよびガス製品の販売・輸出まで幅広く行っていることを紹介し。最近ではガスの輸送ルート多角化のために開発中のTAPIパイプラインの建設コンソーシアムのリーダーに選ばれたことについて言及した。また、ガスおよびガス化学分野のイノ

バージョンによって、資源の少ない鉱床の開発が可能になったり、高度なガス加工による加工品の輸出が拡大したり、ほかの経済分野のイノベーションの資金を確保したり、といった新たな可能性を生み出すことを強調し、日本企業に対してガス分野のプロジェクトへの参加を呼びかけた。

渡辺・川崎重工プラント・環境カンパニー・バイスプレジデントは、トルクメニスタンにおける同社の活動として、セメントプラントや肥料プラントの現状について紹介した。さらに、今後進めていくことになる新しいGTGプロジェクトについても説明し、同社の技術や知見が今後もトルクメニスタンの天然ガスの有効利用に貢献できると語った。

第1部の最後の報告となった包行・筑水キャニコム社長は、農業用・建設用の運搬車両や草刈機について映像を交えて紹介し、トルクメニスタン側に関心と理解を呼びかけた。

第2部 社会インフラ整備部門の協力 続いて、第2部は「社会インフラ整備部門における協力」をテーマとし、これまでの日本とトルクメニスタンの協力の中心であった燃料エネルギー分野を除く新たな協力の可能性として、医療、製造業、運輸・輸送、建設など新しい分野での紹介や協力の可能性についての報告を中心にトルクメニスタンの各省から5名、日本企業から6名の報告が行われた。

冒頭でシェリポフ経済発展大臣は、今回のビジネスフォーラムが両国の既存のビジネス関係を質的に新しいレベルに進めるために必要な行事であることを指摘した。ここ数年、トルクメニスタン経済は安定した成長を続けており、工業および建設分野で特に著しい成長がみられることを指摘した。また、トルクメニスタンで実施されている大規模な国際プロジェクトにみられるように、近年は投資活動が

活発化しており、日本を含む国際的な協力関係の発展を重視していると説明した。そして日本の高度技術を高く評価し、科学技術の進展を重視しているトルクメニスタンは日本との互恵的なビジネス関係の促進に関心があると述べ、日本企業のトルクメニスタン市場におけるプレゼンスの拡大に関心を示すとともに、さらなる協力関係の発展に期待を述べた。

次に、山本・Medical Excellence JAPAN代表理事は、日本の医療の国際協力について紹介し、特にロシアでの実績を説明した。そして、トルクメニスタンでも日本の医療のノウハウ、教育を含めた診断センター設置等について進展することへの期待を語った。

さらに、山田・PJL代表取締役は、前述のMEJの発表の続きとして、トルクメニスタンで画像診断センターの設立を目指すと語り、特に人材交流を先行して進めていきたいと語った。そして実現のためにトルクメニスタン政府側の協力を求めた。

オラズムィラドフ工業大臣は、トルクメニスタンで行われている一連の改革の中でも工業部門の改革は最も成功している改革の一つであると述べた。また、太陽光、LED、配電設備、電気・電子機器生産など、同省にとって重要なさまざまな投資プロジェクトを挙げ、これらのプロジェクトに対する日本からの提案を期待していると述べた。

次に中村・東京製綱社長は、同社の主要製品のひとつである安全・防災システムの中の落石防護システムについて詳細に説明し、ロシアやカザフスタンでも実績のあるこの製品が、かつて大地震が発生したことのあるアシガバットでも役に立つことを強調した。

続いて、星野・旭イノベックス社長は、夏と冬の歓談の差が非常に大きいというトルクメニスタンの気候条件を指摘し、快適な環境を提供することのできるラジエーター等について

て紹介し、技術協力をしていきたいと語った。

アイドグディエフ自動車交通大臣は、日本企業との協力の事例をいくつか紹介し、外国との協力がますます拡大していくことへの期待を強調した。

次に小丸・福山通運社長は、トルクメニスタンをはじめとする中央アジア諸国への日本企業の進出が増加し、インフラ整備が進むと最適なロジスティクスの構築が必要となることを指摘した。そして、今後の国債事業展開においてトルクメニスタンにも関心を持っていると説明した。

続いて、杉田・ボストン・コンサルティンググループ・マネージング・ディレクターは、東南アジアや中東等、新興国、資源国でのコンサルティング支援の実績を紹介し、トルクメニスタンでも役に立つ機会があることを期待していると語った。

第2部の最後には、アタエフ建設・建築大臣が報告を行い、トルクメニスタン経済の優先分野の1つである建設について、国内では石油ガス、化学、エネルギー分野の複合施設、農業、輸送・通信分野関連施設、商業施設や住宅の建設等あらゆる建設が急速に行われていることを指摘し、その建設には外国企業も多く参画していることを強調した。さらに首都アシガバットでは、市の領域拡大に伴って、インフラ整備が行われており、電力供給システムや通信ネットワークの強化、道路や歩道の建設・再建や急速に進んでおり、この作業は今後も拡大していくことを説明した。そして、同省では、日本の建設分野の最新技術の導入に高い関心があり、耐震設計の問題でも協力に関心があると強調した。

VIPセッション 安倍総理とベルディムハメドフ大統領が出席したVIPセッションでは、本稿の冒頭で紹介した両首脳による挨拶に続いて、

日本のビジネス界を代表し、本会議のモデレーターを務めた小林・日本トルクメニスタン経済委員会会長（伊藤忠商事顧問）より、両首脳への謝辞が述べられた。小林会長は、本フォーラムへの両首脳の参加に謝意を述べ、2009年の初訪日以来、2013年、2015年と合計3度にわたるベルディムハメドフ大統領の訪日に加えて、今回の安倍総理の初のトルクメニスタン訪問が実現したことにより、両国間の協力関係が多方面に広がることへの期待を表明した。また、ベルディムハメドフ大統領の訪日以来、急速に進んだ日本とトルクメニスタンの関係強化の成果として、今回のビジネスフォーラムの中で、数多くの協力文書が調印される予定であることを説明した。そして、民間企業として日本の最先端技術、競争力のあるファイナンス、諸外国で事業展開をしてきたノウハウと経験をトルクメニスタンに提供し、同国の経済発展に引き続き、貢献していきたいとの考えを述べた。

文書署名式

VIPセッションでは、小林会長の謝辞に続いて、安倍総理およびベルディムハメドフ大統領、両首脳の立会いの下で、日本とトルクメニスタンの企業・政府機関のあいだの署名式が執り行われ、ビジネスフォーラムの中で9の文書が調印された。

ビジネスフォーラムでの署名リストは以下の通り。なお、安倍総理のトルクメニスタン訪問では、大統領府でも両首脳立会いの下、10の案件に署名が行われており、そちらも合わせて紹介する。

ビジネスフォーラムにて署名された案件リスト

| | 文書名 | 署名者 |
|---|--|---|
| 1 | 金融部分野における協働に関する覚書 | ㈱三井住友銀行 ／トルクメニスタン国立 対外経済関係銀行 |
| 2 | ガルクィヌシ・ガス田第3期開 発プロジェクト用ガス処理プラ ント建設Framework Agreement | 日揮(株)、双日(株)、伊 藤忠商事(株)、千代田 化工建設(株)、三菱商 事(株)／トルクメンガス |
| 3 | イランリーにおけるポリエチレ ン製造プラント建設MOU | 日揮(株) ／トルクメンガス |
| 4 | 燐酸・リン系肥料製造プラント 建設Framework Agreement | 双日(株) ／トルクメンヒミヤ |
| 5 | 海水淡水化プラント | 丸紅(株)／トルクメニス タン水利省 |
| 6 | キャンリイ地区におけるポリマ ー製造プラント | 三菱商事(株) ／トルクメンガス |
| 7 | トルクメニスタンにおける JAPAN-GTLプロジェクト実施 へ向けた協力覚書 | JOGMEC／トルクメン ガス、石油ガス産業 鉱物資源省 |
| 8 | 三菱商事と国営コンツェルン 「トルクメンヒミヤ」との協力を に関する包括的なFramework Agreement | 三菱商事(株) ／トルクメンヒミヤ |
| 9 | トルクメニスタン・ゼルゲル・シ ンプルサイクルガスタービン火 力発電所新設案件・EPC契約 | 住友商事(株) ／トルクメンエネルギー |

大統領府にて署名された案件リスト

| | 文書名 | 署名者 |
|---|--|---|
| 1 | 日本国とトルクメニスタンとの パートナーシップの深化に関 する共同声明 | 安倍総理大臣／ベル ディムハメドフ大統領 |
| 2 | 防災分野における日本国政府 とトルクメニスタン政府の間の 協力覚書 | 原田駐トルクメニスタン 大使／ムハメドフ国 防省次官兼民間防 衛・救助活動総局長 |
| 3 | 外交・公用査証免除に関する 文書 | 原田駐トルクメニスタン 大使／メレドフ副首 相兼外務大臣 |
| 4 | トルクメニスタン鉄道運輸省と の鉄道分野における協力覚書 | 上田経済産業審議官 ／鉄道運輸省 |
| 5 | トルクメナバット特別支援学校 における生徒の職業訓練のた めの温室建設計画 | 中島駐トルクメニスタン 大使(名称大使)／ トルクメニスタン赤新 月事務局長 |
| 6 | 文部科学省とトルクメニスタン 教育省との間の教育・科学分 野における協力覚書 | 馳文部科学大臣(事 前署名済)／アガムイ ラドフ教育大臣 |

| | | |
|----|--|--|
| 7 | トルクメニスタン国立対外経済 銀行(TFEB)と日本貿易保険 (NEXI)との協力枠組みに係る MOU | 板東NEXI理事長／ Rahimberdi Jepbarov TFEB総裁 |
| 8 | 東京外国語大学とトルクメニ スタン国際人文・開発大学と の学術交流協定 | 立石東京外国語大学 学長／国際人文・開 発大学学長 |
| 9 | MIHO美術館とトルクメニス タン文化省との間の文化協力覚 書 | 稲垣MIHO美術館総 務部長(主任研究委 員)／ガラジャエフ文 化大臣 |
| 10 | MEJとトルクメニスタン保健・ 医療工業省との協力に関する 覚書 | 山本MEJ理事長／ア マンネペソフ保健・医 療工業大臣 |

おわりに

最後に、この場をお借りし、今回の日本・トルクメニスタン・ビジネスフォーラム開催にあたり、ご協力いただいた両国の関係者の方々へ当会より心より感謝申し上げたい。

大統領(ともちろん総理)出席ということで、冒頭の写真にあるとおり、会場となったイルディスホテルの会議場は約1週間も前からまるで結婚式の披露宴のような円卓で埋め尽くされ、大統領お気に入りの真っ白な花と金色の装飾、前日にすべて付け替えられた新品の豪華なシャンデリアで飾られ、とても印象的であった。そんなトルクメニスタン特有の会場のしつらえに加えて、VIPセッションの直前には突如として金属探知機や携帯電話を預ける棚が設置され、両首脳の入場1時間前に再入場した参加者全員が着席して出入口が封印される等、本会議とは比べ物にならない厳戒態勢が敷かれたVIPセッションの雰囲気はまさにトルクメニスタンらしい一面であった。

本稿に掲載したプログラムおよび署名案件リストについては日本トルクメニスタン投資環境整備ネットワーク(<http://www.jp-tr.org/>)からダウンロードできるので、適宜ご利用いただきたい。

(構成：中馬 瑞貴)